

公益財団法人 愛恵福祉支援財団 2025 年度出版助成贈呈式 審査委員会 審査報告

審査委員会 審査委員長 柴田謙治

公益財団法人 愛恵福祉支援財団は 2025 年度から出版助成を開始しました。2025 年度には 3 件の応募があり、審査委員長の柴田(金城学院大学教授)と佐竹要平委員(日本社会事業大学准教授)、宮永耕委員(愛恵福祉支援財団理事・前 東海大学准教授)による審査委員会は、厳正な審議の結果、今堀美樹氏(大阪体育大学教授)の「竹内愛二とキリスト教社会主義運動—ケースワーク論の『科学』と『価値』を問い直す—」(ミネルヴァ書房、2026 年 2 月刊)と庵原美香氏(花園大学専任講師)の「被災者のスピリチュアルペインに配慮したソーシャルワーク実践モデルとは何か—東日本大震災による住宅全壊被災者の語りが示すもの—」(ミネルヴァ書房より刊行予定)の 2 件を出版助成の対象とすることを決定いたしました。今堀氏と庵原氏にお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

今回は初めての審査でしたので、審査の基準についての議論から始めました。愛恵福祉支援財団の前身が 1930(昭和 5 年)に東京市足立区本木に建設された愛恵学園というセツルメントであり、その創設者がメソジスト監督派のミルドレット・アン・ペイン宣教師であったことから、社会福祉、そしてキリスト教精神の二つを審査の基準にすることにしました。審査委員会は 12 月 16 日(火)と 1 月 19 日(月)に開催され、今堀氏と庵原氏の研究がいずれも同志社大学の大学院から博士号を授与されたものであり、社会福祉学の研究成果としての新たな知見と高い水準を有すること、そしてどちらの研究にもキリスト教精神に関連する内容が含まれていることを確認しました。

今堀氏の「竹内愛二とキリスト教社会主義運動」は、キリスト教社会福祉の歴史研究です。日本にケースワークを導入した竹内愛二の理論とそれへの批判を糸口として、「東亜協同体」論や人格主義、実存主義、「社会的基督教」とキリスト教神学などの論点から問い直し、竹内ケースワーク論の「科学」と「価値」について新たな知見を示したものです。今堀氏が長きにわたる研究の集大成を出版されたことに敬意を表し、お祝い申し上げます。

庵原氏の「被災者のスピリチュアルペインに配慮したソーシャルワーク実践モデルとは何か」は、災害時のソーシャルワーク実践についての国内外の文献のレビューに基づいて視点や概念を構築し、質的調査によって検証したものです。災害時におけるソーシャルワーク実践で被災者のスピリチュアルペインに着目する必要性と意義を論じたうえで、被災者のスピリチュアルペインに配慮したソーシャルワーク実践モデルの概念枠組みを明らかにし、東日本大震災による住宅全壊被災者のスピリチュアルペインの経験とプロセスを分析して、実践モデルを開発しました。庵原氏の研究にはソーシャルワーク論としての新たな知見が含まれており、スピリチュアリティの概念の構築においても欧米の宗教的信念にふれながら日本における独自性についても言及していることから、キリスト教との接点を感じられます。東北で福祉を学び、医療ソーシャルワーカーとして実践を積み重ねた庵原氏がこのような研究をまとめられたことに、敬意を表します。

受賞されたお二人に、重ねてお祝いを申し上げます。おめでとうございます。